学校だより

3月号

令和６年（2024 年）
２月２９日（木）

横浜市立洋光台第二小学校

震災から学ぶこと　～そして、新しいスタートへ

学校長　野村（のむら）　光（ひかる）

３ 月になりました。年明け早々に発生した能登半島地震から2か月が経ちます。今なお多くの方々が長期に及ぶ避難生活を余儀なくされ、200 名を超す尊い命が失われる大震災となってしまいました。被災されたすべての方々に心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災からも３月 11 日で 13 年を迎えます。当時勤務していた南区の小学校で経験した大きな揺れの瞬間を、昨日のことのように思い出します。あの日はちょうど子どもたちの下校時間に重なる大地震でした。

本校では防災計画を作成し、年間を通して避難訓練を行っています。1 月には児童に予告しない今年度最後の避難訓練を実施したばかりでしたが、有事の際、的確な避難指示を出し、連携して子どもたちの安全を守る役目の教職員にも予告しない避難訓練を急遽計画し、2 月 27 日に実行しました。当日は磯子区役所の危機管理・地域防災係長にも参加を要請し、校庭に避難した子どもたちには、今回の能登半島地震の被災地支援で実際に見て、体験したことなどを話していただきました。台本のない避難訓練でしたが、職員はいつもの訓練と変わらず落ち着いて児童を誘導し、子どもたちも教師の話や放送の指示をよく聞いて、真剣に参加する姿を見ることができました。今回の訓練で見えた課題は、学校防災計画に反映させていきます。

しかしながら、地震はいつ起こるかわかりません。もしも学校ではないところにいて起きてしまったら…釜石の小学校では下校後の地震発生によって誰の指示もなく、自ら考え、判断し安全に避難しなければならない状況であったと報告されています。子どもたちには、日ごろの避難訓練で学んだ知識を、身に着けた主体的な正しい判断と行動に結びつけて、大切な命を守ってほしいと心から願っています。

今年度最後のひと月が始まりました。3 月はまとめの月です。ここで自分自身の学びや生活のあしあとをしっかりと振り返ることが大切です。学習面でできるようになったことや生活面での活動の広がりに気付くことができるはずです。困難な課題解決に立ち向かう力を育むためには、失敗をも含めた様々な体験が核となります。まとめの月は、次の新しい学年が始まる大切なスタートにつながります。一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

コロナ五類移行後の子どもたちの学びの場は、教室の中からまちへと広がりました。一年を振り返るとどの学年も地域の人との関わりが、子どもたちの学びを深めることに繋がったことに気づきます。改めて感謝申し上げます。そして、保護者の方におかれましては、日々の学校教育活動に様々なご理解、ご協力をいただけたことをうれしく思います。一年間、ありがとうございました。